

「てのひら」の現状とグループリビングの普及に向けて



NPO 法人 てのひら
石原 智秋

Yさん(85歳)が退去された。あれほどお元気で、はつらつとされていたのに...高齢期の6年の歳月は大きい。

一年ほど前から、時々、勘違いや物忘れがあったけれど、住人の気配りや介護保険制度を利用することで、昼間は普通に過ごされていた。しかし、最近、みんなが寝静まった頃、廊下に出て転倒したり、階下に降りようとしてエレベーターに乗ったまま、といったことが起きるようになった。

グループリビングは夜の職員がいない。夜、過ごすことができなくなった時が退居の目安となっていることに、仕方がないとの思いと、何とかならないものかとの思いが交錯する。そのうち、結局、家族の決断で施設に入所されることになった。ひとり居の先を案じ、思い切って移り住まれたはずなのに...と複雑な思いを抱く私に向かって、ご家族から「母はこの自由な雰囲気の中で、いきいきとして暮らして来ました。本当に良いところでした」と。そして、「夜に職員がいれば、もっとここに住んでいただけたのに」との私の言葉に「いえいえ、そうなればもう施設でしかありませんから」ときっぱり。なるほど、忘れかけていた「在宅」の文字。それぞれの生活スタイルは違っても、夜も自由気ままに過ごされている住人たちの顔がふと思い浮かぶ。

“てのひら”はCOCO 湘南台をモデルに、少しばかり肉を付け、膨らませ、また、そぎ落とし「心地よい第三の住まい」を作り上げたつもりでいる。そして、私は良心的な運営者(と思っている)として住人たちと拘わっている。グループリビングが、サ高住に属すると義務付けた行政の方針に怒りつつ。

今年度から、当法人“てのひら”がJKA補助事業の事業主体となった。これまでの数年間でグループリビング運営協議会に所属して下さっている研究者の方々と運営者が調査研究を行い、普

及が難しい要因を洗い出している。こうした懸命の調査を元に、今後、グループリビングの立ち位置を鮮明にしながら、なお一層の普及に向けて、努力をしていきたいと思っている。

最後に、新しくグループリビングの開設を考えておられる方は、先を見据えて、介護保険のプランを立ててくれる居宅介護支援事業所との関係が不可欠であることを知るべきだと思っている。出来ることなら、グループリビングの一階にもう一室部屋を作り（同程度の広さで十分）、居宅介護支援事業所に事務所として貸し出す。階下にケアマネジャーがいることで安心が買える。介護が必要になれば、即座に、そして、的確に動いてくれる。その上、部屋代は運営費に回すことができるという一石二鳥の提案をしたい。こうした試みで、医療、看護、介護に関係のない方もグループリビングを安心して立ち上げることができるのではないかと考えている。



2019 年度公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」 テーマ：高齢者グループリビングと地域ケア資源の連携に関する研究

2016 年度から 2018 年度に NPO 法人暮らしネット・えん（埼玉県新座市）が JKA 補助事業の事業主体となり実施した調査研究が 9 月 30 日無事終了いたしました。今年度からは NPO 法人てのひら（兵庫県高砂市）が事業主体となり、新しいテーマ「高齢者グループリビングと地域ケア資源の連携に関する研究」に取り組むことになりました。今回の研究では 4 年以上の実績のある協議会の会員が運営するグループリビングを対象に調査を行う予定です。会員同士が学び合えるように、インタビュー調査には研究者以外の会員からも参加者を募ります。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。なお、研究成果は 3 月のシンポジウムで発表する予定です。

グループリビング運営協議会メンバー募集中

グループリビング運営者のもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

【活動内容】

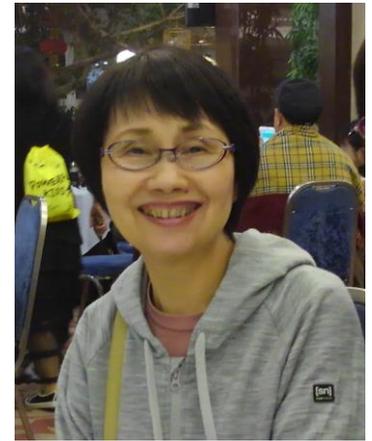
1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

詳細は以下の URL にあります。

<http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit>

ガンバレ北海道！買物で応援

グループリビング運営協議会
会長 星川光子



いぶりたすけ愛では9月8日に昨年9月に起きた胆振東部地震被災地を巡る「災害支援ガンバレ北海道！ 買物で応援」バスツアーを実施しました。

2011年に起きた東日本大震災後、毎年「ガンバレ東北！震災支援チャリティー」を実施してきましたが、昨年の9月には胆振東部地震があり、いぶりたすけ愛も震度5弱の地震とブラックダウンを経験しました。

被災地は同じ北海道の胆振管内です。身近な私たちにできることをしたいと考えた結果、ささやかですが被災地の復興のお役にたてればと願って、買物で応援をすることにしました。趣旨に賛同した参加者には、被災地出身の方が何人もいて、故郷の様子に心を痛めていました。

むかわ町はシシャモが名産ですが、解禁前。お肌に良いというスーパーフード「シーベリー」を買い占めました。

厚真町の「まちなか交流館しゃべ〜る」には無料リサイクルの食器・衣類を届けました。特産のおからの出ない豆腐、油揚げは売り切れとなりました。

出来たばかりの「道の駅あびらD51ステーション」では評判のもくもくD51ソフトを並んで食べ、焼き立てパンや新鮮な野菜をたくさん購入。

厚真町では山が崩れた現場を通り、想像以上に広範囲な、あまりの惨状に言葉がありませんでした。崩れた山の裾野には復旧の済んだ水田が金色に広がり、近くに「献花台」が設けられていました。全員で献花し、早い復興、復旧を願って合掌し、しばし呆然と佇みました。

今年も台風15号による千葉県の停電、台風19号による大規模な水害と、続いています。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

温暖化の影響か、いつどこで何があるか分からないこのごろです。グループリビング運営協議会の総会では、ネットワークを活用して、災害時の相互支援の体制をとることを決めました。全国のグループリビングが、お部屋の提供、支援物資などで助け合えれば、心強い支えになります。

災害が起きないことを祈りながらも、備えもしっかりとしなければならないと思っています。

第8回定時総会を行いました。

10月27日、東京都目黒区のオーナーズテラス自由が丘において、第8回定時総会を開催しました。正会員27人中16人（内委任状4人を含む）出席のもと、真摯なる討議が行われ、すべての議案において可決承認されました。総会の議事については5～11頁をご覧ください。

オーナーズテラス自由が丘の見学会を開催しました。

総会后、オーナーズテラス自由が丘の見学会を行いました。

オーナーズテラス自由が丘の建物は閑静な住宅街に立地しています。東横線の自由が丘駅や世田谷線の緑が丘駅まで10分と利便性の良さも魅力です。

東京都23区内でグループリビングが普及しない理由の1つに家賃の高さがあります。居住者の自宅をリフォームし、シェアハウスとして価値を上げ、それを貸して、その家賃収入でグループリビングに入居できる仕組みは、シェアハウスのニーズの高い目黒区やその周辺地域ならではの発想で、都心の高齢者が住み慣れた地域に暮らし続けるための選択枝を増やすことができます。

また、オーナーズテラス自由が丘の運営は、オーナーの伊藤敬子さんとそのママ友が協力して取り組まれています。ママ友などの地域の仲間が力を合わせてつくったグループリビングには、COCO宮内やたすけ愛の家などがあり、良好な運営がされています。仲間同士が試行錯誤しながら助け合っってつくったものは、きっと良いものになると思いました。

グループリビング運営協議会会員の災害時の相互支援について

総会で、会長の星川光子氏より、災害時、会員の相互支援体制の提案があり、話し合いを行いました。昨今、大きな自然災害が各地で頻繁に起こっています。もし、災害が起こった場合、会員同士のネットワークを利用し、部屋の提供や必要な物資を送るなどの支援を行うことになりました。LINEアプリでグループをつくり、情報を共有する予定です。後日、事務局からLINEグループの参加の希望を募ります。ご協力よろしくお願いたします。

総会報告

2018 年度 事業報告

I 本会の現況

1 会員の異動

本年度の入会並びに退会及び会員数は次のとおりである。

	正会員 (団体)	正会員 (個人)	賛助会員 (団体)	賛助会員 (個人)	学生 会員	合計
2018.3.31	13	13	5	1	1	33
入会	4	1	0	0	1	6
退会	2	2	1	0	1	6
会費納入無	1	4	4	1	0	10
会員種別変更*	0	0	0	0	0	0
2019.9.31 会計人数	14	8	0	0	1	23
2019.3.31 現在会員数	15	12	4	1	1	33

2 役員の現員

理事 8名(うち会長1名)

3 第7回定時総会

○定時総会を次のとおり開催した。

日時 平成30年7月21日(日) 14時30分~17時

場所 COCO 下小田

出席者数 15名(うち委任状7人を含む)

○議決承認事項

- 1) 平成29年度事業報告について
- 2) 平成30年度事業計画について

4 役員会議

○第9回理事会を次のとおり開催した。

日時 平成30年7月21日(日) 14時30分~17時

場所 COCO 下小田

出席者数 8名(うち委任状1人を含む)

○議決承認事項

- 1) 平成29年度事業報告について
- 2) 平成30年度事業計画について

II 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

①JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人 暮らしネット・えん)に協力

1) 平成 29 年度 JKA 補助事業 自己評価、完了報告書、広報資料作成等

2) 平成 30 年度 JKA 補助事業 企画・運営、ワークショップ開催、状況報告書等作成等

3) 平成 31 年度 JKA 補助事業 企画、申請書作成等

②グループリビングを作りたい人、入居したい人、興味を持つ人への対応。

1) グループリビングを作りたい・興味をもつ個人・グループ 7 件

(地区別 東京都 2・京都府 1、大阪府 1・滋賀県 1・北海道 1、島根県 1)

(事業者別 不動産事業者 2・介護事業者 4、その他 1)

2) グループリビングに入りたい人 3 件

3) メディア 1 件 (テレビ朝日)

上記のうち GLnet からの問い合わせ 11 件

2 ワークショップの開催協力

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力。

○川崎シンポジウム・川崎グループリビング見学会を以下のように開催した。

1) 川崎シンポジウム

日 時 3 月 31 日 (土)

場 所 川崎市国際交流センター (神奈川県川崎市)

参加者 40 名

2) 川崎グループリビング見学会

日 時 3 月 30 日 10 時～16 時

場 所 おでんせ中の島・COCO 宮内・COCO せせらぎ

参加者 29 人

3 グループリビングの研究調査協力

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力。

○高齢者小規模共同居住の運営者や潜在的運営者を調査し、報告書 I (総括編)、報告書 II (シンポジウム・調査報告編)を作成。

4 ホームページの運営協力

○HP「自由な暮らし。自分らしく。ともに住もう。」を更新。

<http://www.glnet-groupliving.org/>

*平成30年度JKA補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体NPO法人暮らしネット・えん)に協力。

○HP「東北にグループリビングの暮らしを」を維持。

<http://www.group-living.org/>

*WAM助成で作成のため5年間維持が必要。

5 会報の運営協力

会報の作成と発信

年3回(メール等で関係者に配信)

*平成30年度JKA補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体NPO法人暮らしネット・えん)に協力。

III 今後の課題

- (1) 今年度の会員数は、正会員(団体)の新規入会4、退会2で、正会員(団体)が2増加した。新しい正会員(団体)の内訳は、これからグループリビングを作りたい団体2、これから開設する団体が1、現在運営している団体1となっている。グループリビングを作ること、運営することに対する実践的な支援や情報提供が十分にできるように努力することが求められる。

正会員(個人)は、平成30年度は平成29年度と比較すると新規入会1、退会2となり1減少した。

一方で高齢者住宅を探している人やグループリビングをつくりたい人がHPに連絡してくるケースが増えている。地域住民に向けて、啓蒙普及活動や情報提供を行うことは、会員数を増やすとともにグループリビングの入居率を上げ、グループリビングの普及につながる可能性があるため、今後力を入れることが必要である。

- (2) 平成30年度の活動は、前年度の繰越金が少なかったため、ワークショップ参加費で収入を増やし対応した。今年度はJKAの自己負担分を増やしたため、同様の方法で対応する必要がある。資金が増えれば、活動をさらに活発化できるため、今後さらに会員が増加するように努力が必要である。

- (3) JKA補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」は3年計画の3年目を終えた。これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行うことができた。今年度からは引き続き「高齢者グループリビングと地域ケア資源の連携に関する調査研究」を行う。質の高いグループリビングが普及するように情報提供を社会に向けて提示することが求められる。

- (4) 協議会の活動は今年で8年目となる。この8年間で協議会のネットワークが強くなり、

協力体制もできてきた。また、グループリビングは近年テレビや新聞で取り上げられることが多くなったが依然として知名度は低い。一方で、協議会の HP の問い合わせが平成 30 年度は 11 件あり、そのうち 4 件が会員（うち正会員団体 3、学生 1）になるなど、成果を上げている。協議会の活動をさらに活発化させ、グループリビングの暮らし方を社会に広げていくため、新たな活動を検討する時期にきている。

2018 年度 収支報告

2018 年 4 月～2019 年 3 月末日（整理期間 2019 年 10 月 1 日迄）

収入の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
年会費	361,000	350,000	11,000	
寄付	184,000	150,000	34,000	本売上等・WS 参加費等
雑費	113,501	0	113,501	懇親会費等、お弁当代（WS 時）、利息等
前期繰越収支差額	25,845	25,845	0	
収入合計（A）	684,346	525,845	158,501	

支出の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
臨時備益費	126,000	120,000	6,000	JKA 書類作成・焼津 WS 準備・事務等
交通費	19,082	5,000	14,082	JKA 事業補助対象外交通費、WS 事務局旅費
通信費	42,854	41,000	1,854	郵送料、HP ドメイン更新費用、電話代等
支援費	280,000	280,000	0	JKA 事業自己負担分
雑費	123,444	20,000	103,444	飲食費・茶菓子等
予備費	22,080	5,000	17,080	会場費・備品
支出合計（B）	613,460	471,000	142,460	
次期繰越収支差額 （A）－（B）	70,886	54,845	16,041	

2018 年度 監査報告

グループリビング運営協議会
会長 星川 光子 様

監 事 宮野 順子



1. 監査の概要

2019 年 10 月 6 日、資料を送付いただき、2018 年度の決算書類及び業務執行について監査を行いました。

2. 監査結果について

監査にあたり、決算書及び帳簿、通帳、領収書、伝票などを確認し、間違いのない適正な執行を確認しました。

3. 業務執行について

2018 年度に協力した JKA 補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」では、これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行い、多くの活動の成果が得られました。

4. 今後の課題

JKA 補助事業は終了するが、協議会への問い合わせが増加するなど、社会的なニーズが顕在化してきています。次年度からは、「高齢者グループリビングと地域ケア資源の連携に関する調査研究」をテーマに行う 3 年計画で予定であり、さらなる研究成果の蓄積と社会へ広く周知していく活動となることを期待します。

以 上

2019 年度 事業計画

I 本会の運営

1 会員の増強

JKA 事業の活動を通して会員の増強策を図る。
会員を通しての募集に力を入れる。

2 役員、顧問の現員

理事 8 名（内、会長 1 名、理事 7 名）

3 第 8 回定時総会

○定時総会を次のとおりに開催する

日時 令和元年 10 月 27 日（日） 10 時 00 分～12 時 00 分

場所 オーナーズテラス自由が丘（東京都目黒区）

4 役員会議

○第 10 回理事会（メール審議）

日時 令和元年 10 月 24 日(木)

出席者数 8 名

○議決承認事項

- 1) 平成 30 年度事業報告について
- 2) 令和元年度事業計画について
- 3) 災害時等におけるグループリビングへの相互支援について

II 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

①JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」)に協力

- 1) 平成 30 年度 JKA 補助事業 自己評価、完了報告書、広報資料作成等(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)
- 2) 平成 31 年度 JKA 補助事業 企画・運営、シンポジウム開催、状況報告書等作成等(事業主体 NPO 法人てのひら)
- 3) 令和 2 年度 JKA 補助事業 企画、申請書作成等
(事業主体 NPO 法人てのひら)

②グループリビングについての相談・見学対応等

2 シンポジウムの開催

○シンポジウム

令和元年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る活動」
(事業主体 NPO 法人てのひら)に協力。

日時 平成 31 年 3 月初旬

場所 未定

3 調査研究

令和元年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」
(事業主体 NPO 法人てのひら) に協力

4 ホームページの運営

令和元年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」
(事業主体 NPO 法人てのひら) に協力
・記事作成、記事更新等

5 会報の運営協力

令和元年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」
 (事業主体 NPO 法人てのひら) に協力
 ・年 3 回発行

6 その他

2019 年度活動計画予算

2019 年 4 月～2020 年 3 月末日 (整理期間 2019 年度 JKA 事業終了迄)

収入の部

▲印減額 (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
年会費	350,000	350,000	0	
寄付	180,000	150,000	30,000	本売上等・シンポジウム参加費、個人寄付等
雑費	100,000	0	100,000	飲食費 (懇親会等)、利息
前期繰越金	70,886	25,845	45,041	
収入合計 (A)	700,866	525,845	175,041	

支出の部

▲印減額 (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
臨時備益費	120,000	120,000	0	シンポジウム対応・JKA 申請書類作成・完了報告書等作成・見学者対応等
交通費	10,000	5,000	5,000	
通信費	41,000	41,000	0	HP ドメイン更新費用、電話代、郵送代、等
支援費	330,000	280,000	50,000	JKA 事業自己負担分 (313,000)、予備費
雑費	120,000	20,000	100,000	飲食費 (懇親会等)、文具・インクカートリッジ、茶菓子代等
予備費	5,000	5,000	0	
支出合計 (B)	626,000	471,000	155,000	
次期繰越金収支差額 (A) - (B)	74,866	54,845	20,041	

居住者作の COCO せせらぎのチラシとパンフレットからみる

★暮らし★

COCO せせらぎの新しいチラシ、パンフレットができました。これらは居住者がつくられたものです。チラシ、パンフレットは当事者目線で作られたものとなっており、暮らしの様子がよくわかります。チラシとパンフレット（抜粋）から COCO せせらぎの暮らしをみてみましょう。

○チラシ

**「自立と共生」を目指す
グループリビング
COCO せせらぎ**

一人での時間を大切にしながら ゆるやかな共生の中で
いつまでも 元気で いきいきと暮らすための住まい

散歩道に降りたつたサギ
江川せせらぎで子育てするカモ
江川せせらぎ散歩道に沿って建つ
cocoせせらぎ

こんなこと思うことはありませんか...?

- ☑ 一人になって会話も減り、食事をつくることも面倒になって粗末になり、健康が不安
- ☑ 今は一人で自由なく生活できているけど、これからの生活を考えると不安がある
- ☑ できることは自分でやって自由に暮らしたいけれど、ある程度のサポートも欲しい
- ☑ 高齢期になり今後の住まいを検討しているが、経済状況、保証人の有無など条件が合わない
- ☑ 家族とではなく、近い境遇の人と、つかず離れずの共同生活を送りたい
- ☑ これからどのように暮らしていくか、体力・気力・判断力のあるうちに考えたい

思っていることなど
コーヒーでも飲みながらおしゃべりませんか。
毎週水曜の午後カフェをひらいています。

まずは見に来てください!
食事体験、一泊体験できます

テレビでも紹介されました!

テレビ東京『なないろ日和!』（2018年3月15日放送）のコーナー
『シニアの住まい最前線〜快適セカンドライフ』にて
グループリビング COCOせせらぎが紹介されました。

- 14畳の個室で一人の自由な時間を楽しめます
- 仕事その他で自由な時間に出かけることができます
- 買い物も便利、洗濯・入浴はいつでもどうぞ
- 生活を支えるライフサポーターがいます
- 急な体調の変化にも仲間やスタッフがいます
- 朝昼の食事は自由な時間に自分で作って個室で
夕食は食堂で皆と一緒にいただきます
- 小さいながらも菜園で採れた野菜を楽しんでいます
- 同じ屋根の下 声を掛け合いながら元気に暮らす工夫をしています
- サロンで地域の方々と楽しく交流しています
(体操、カフェ、うた、手芸など)
- ひな祭り、たんごの節句、灯籠流しなどの行事も
地域の人たちと一緒にこなしています
- 医療、介護の支援を受けながら、希望すれば
最後まで住み続けられることもできます
- NPO法人なので利潤を上げることは目的にしていません
- 入居者、ライフサポーター、スタッフ、運営事務局で運営しています

**CoCoせせらぎの
生活スタイル**

入居金 : 300万円 (途中退所の場合、個室の修繕費と償却分を差引いて返却)
月額費用: 139,000円 (家族・食費・運営費・共益費を含む)

グループリビング COCOせせらぎ
川崎市高津区明津27-1
☎ 044-766-3066

NPO法人 川崎北部グループリビング
代表 前田由子 (080-8745-6896)
E-MAIL info@coco-hokubukawasaki.jp
ホームページ「cocoせせらぎ」で検索

バス
武蔵新城駅より川崎市営バス [川63「井田営業所」「元住吉」「江川町」行]
または [川68「井田病院」行] 明津バス停下車徒歩4分

徒歩
JR武蔵中原駅より15分、東急元住吉駅より20分。

自分らしい「老後」を

一人での時間を大切にし
でも一人暮らしではなく
同じ屋根の下に暮らす おとなりさんと絆をもちながら

「老後」と言われる長い時間を
できるだけ介護や医療のお世話にならずに
健やかに自分らしく 楽しく
過ごしていきたい・・・

cocoせせらぎの生活スタイル



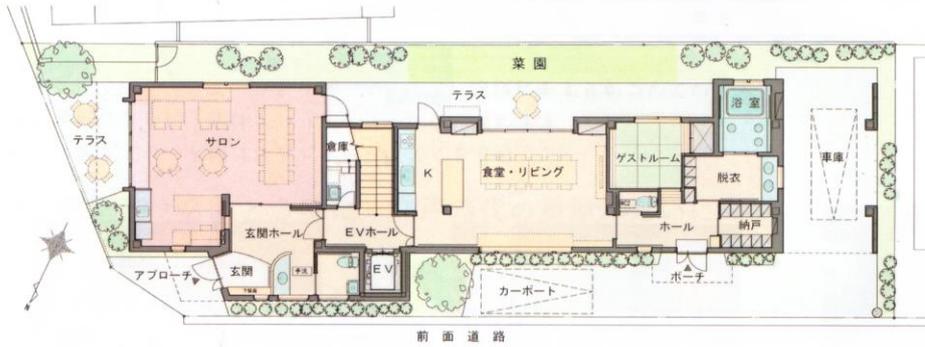
- ・14畳の個室で 一人の時間を楽しめます
- ・朝昼の食事は好きなものを好きな時間に個室で
夕食は食堂で皆でいただきます
- ・仕事・趣味などで 好きな時間に出かけたり
外泊も自由です
- ・買い物も便利 洗濯・入浴はいつでもできます
- ・生活を支えるライフサポーターがいます
- ・同じ屋根の下 声を掛け合いながら
元気に暮らす工夫をしています
- ・サロンで地域の方々と楽しく交流しています
(季節の行事 体操 café 歌 手芸など)
- ・医療・介護の支援を受けながら
希望すれば最期まで住みつづけることができます



江川せせらぎ遊歩道には季節ごとに咲く草花や樹木がたくさん植えられています。その遊歩道に沿ってcocoせせらぎは建っています。
 サロンからは 子ガモたちをひきつれて泳いでいるカモのお母さんや 羽を広げて飛びたつシラサギを見ることができます。保育園児のお散歩もよく見られます。



1階のサロンは地域交流の場



サロンは入居者・地域の皆さん・ボランティアさんたちの交流の場になっていて
 おしゃべりの声 笑い声 歌声が聞こえてきます。



3月ひな祭りの季節には7段飾りのお雛さまをかざり
 5月端午の節句にはカブトをかざって地域の方々といっしょに食事会で祝います



お盆には江川せせらぎで灯籠流しがあり
 cocoせせらぎもフランクフルトを焼いて提供し 地域の行事に参加して この季節を共に過ごします



毎週火曜日 午後1：30から約1時間
 地域の方が集まって「せせらぎ体操」の時間です。ボランティアさんのリードで高津区体操や盆踊りなどで体を動かします。

第4木曜日 午前10：00～11：30は「うたの会」です。ピアノに合わせて童謡ポピュス フォークなつかしい流行歌 合唱曲など次々歌って江川せせらぎに歌声を響かせています。



毎週水曜日 午後2：00～4：00は「すいようcafé」です。挽きたて豆のドリップコーヒーと手作りクッキーで しばしおしゃべりのひととき・・・

第2木曜日 午前10：00～「手作りの会」です。小物作りが好きな人が集まって 布や毛糸や紙などで小物を作っています。



cocoせせらぎの生活を支えるスタッフ

cocoせせらぎは たくさんのスタッフに支えられています

調理スタッフ



地域の4人の主婦による 心のこもった家庭料理の夕食です
予算にあわせて食材が買いそろえられ
経験を生かした調理の工夫がされ・・・
おいしい夕食をいただく6時は 入居者にとって幸せな時間です
季節に合わせて冬はあたたかく 暑い季節には食欲をそめるように
和食中心の野菜たっぷりの献立
年寄りに不足しがちなたんぱく質も考慮にいたれた夕食です



植栽ボランティアの方のおかげで
トマト キュウリ ピーマン ナス ゴーヤ
など 夏には 採りたて野菜が食卓を
にぎわせてくれます



清掃スタッフ

個室は各自で掃除しますが 共有部分はスタッフがいつも
清潔に生活できるように配慮しています
外回りは 植栽などにも気を配り 地域の方々の居場所として
あたたかい雰囲気を工夫しています



ライフサポーター・スタッフ

入居者が cocoせせらぎで安心して健康に暮らせるよう 入居者一人ひとりを見守るのがライフサポーター
困り事の相談にのり 必要ならば業者や専門機関とコーディネートし
ボランティアさんへの配慮 会計など・・・日常のこまごまとした働きをします

また 地域の方々とcocoせせらぎをつなぐ季節の行事を企画したり
地域の方々の居場所になるための セせらぎ体操 café うたの会
手づくりの会 などの企画にも加わります



ときには入居者のマージャンの相手も・・・

日常的に どのような支援がありますか？

ライフサポーターが生活面 健康面 地域での活動など できるかぎりの相談にのります。
家事・買物・通院など 低額料金でスタッフやボランティアが支援します。

体が弱ってきたら どのような支援を受けられますか？

要支援・要介護の認定を受けられるよう ライフサポーターがまず相談にのります。
認定が決まったら cocoせせらぎでは 開所以来5年間ずっと まず「ホッとスペース」に話をしています（もちろん他の介護所も可能）
ライフサポーターのコーディネートによって ヘルパーの派遣・デイサービスの利用・ショートステイの利用などを決めていきます。

急な体調の変化があったら どのように対応していますか？

入居者同士で見守りあい 声をかけあって暮らしているため おたがいの体調の変化に気づきます
自分たちでまず対処し 無理だと思ったら 5分で駆けつけてもらえるライフサポーターに連絡して来てもらいます。また川崎市高齢者緊急通報システム導入について検討中です。



よくある

24時間対応については？

重い病気になった場合 個人契約（有料）ではありますが 近くのしまむら内科医院には24時間往診対応してもらえる態勢がととのっています。

「自立と共生」の 共生が心配だが・・・？

それぞれがちがった環境で生まれ育ち いろいろな人生経験をして 高齢になってから共同生活をはじめるとは確かに不安です。しかし共同生活といっても圧倒的に多くの時間をプライバシーの守られた自室で過ごしますし かとって 共に過ごす時間もあるので 一人暮らしでは得られない安心感があります。
共同生活のルールについては民主的な話し合いで決めます。「共に生活する」ことで仲間としての絆が生まれてきます。
共生については「案ずるより産むが易し」です。

グループリビングって 聞きなれない言葉だけど？

元気で自立をのぞむ高齢者が 地域の中で 血縁ではないつながりを大切にしながら 支援を受けて一つ屋根の下で助け合って暮らす住まい方を グループリビングと言っています。高齢者や障害者の共同生活がさかんな北欧ではすでに多く見られますが 川崎市には現在3カ所あります。
必要な支援サービスのみを受けることで、他の有料高齢者施設などに比べると 経済的にも合理的に設定されています。特にcocoせせらぎはNPO法人運営なので 利潤を追求することは目的ではありません。「社会と繋がりながら健やかにいきいきと老後を過ごす」という理想を掲げています。

入居の費用は？

入居時：300万円（7年以内に退所の場合は個室の修繕費と償却費用を除いてお返しします）

月額費用：139000円

（家賃・夕食費・運営費・共益費を含みます
個室の水光熱費は自己負担）

しつもん



cocoせせらぎは誰が運営していますか？

NPO法人川崎北部グループリビングが運営主体です。
入居者もNPO法人の正会員として、会費を支払い総会に出席します。
運営に関すること 生活に関することなどすべて入居者会議・スタッフ会議・運営会議で民主的に討議され 最終的に9人の運営委員会で決定します。

ソウル市立大学教授 SunYoung 氏がグループリビングを見学されました。



(前列) 土井原 SunYoung 先生 原理事長 (COCO 宮内)

ソウル市立大学教授 SunYoung 氏、生徒の皆さん、設計事務所の方が 11 月 6 日にえんの森（埼玉県新座市）、11 月 9 日に COCO 宮内（神奈川県川崎市）を見学されました。韓国にグループリビングをつくることを検討されているようです。2 年前、韓国の国営放送が日本のグループリビングを取材し、韓国国内で暮らし方が放映されたことがあります。韓国に協議会の支部ができるといいですね。



この会報は、公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」で運営されています。

編集後記

先日、グループリビングを HP で紹介したいという方から連絡があり、原稿を見せていただいた。その内容は、協議会の HP を参考に書かれた部分もあったが、なかには、施設的な説明になっているところも多かった。ちなみに、Google 検索で、「グループリビング」と入れると、最初のページの先頭は協議会の HP であったが 10 項目のうち 3 つしか協議会に関連したものが出てこない。続いて、2 ページ目を見てみても 10 項目中 3 のみである。グループリビングと名の付くサ付きや高齢者アパートが多く、それらは協議会の目指しているものとは違う形態であった。これらのことから、一般の人にとって、グループリビングは、どのような住まいであるのか大変わかりにくいものとなっている。

総会後の懇談会で、グループリビングのなかには、協議会の目指している暮らしとは異なる住まいが混在するため、他と区別した方が良いという意見が出た。どのように区別するかについては「名前を変える」、「認定シールをつくって貼る」などの意見がでたが、議論はそこで終わっている。

一方で、現在、会員のグループリビングに有料老人ホーム登録の指導が入ることが増えている。会報 NO.15～17 の中で各運営者がそれについての考えを述べている。それらの報告によると「グループリビングの目的はケアではなく、地域の中でお互いが支え合って暮らす住まいであり、一方的に管理される有料老人ホームとは違うため、有料老人ホームの対象にならない」が運営者の統一見解であった。国は粗悪な高齢者住宅がなくなることを目指して有料老人ホーム登録を進めている。

今後はグループリビングが普及していく中で、入居者保護の観点から国が排除したいと考えている、いわゆる類似施設とは全く異なるカテゴリーの住まいであることを明確にし、住まいや暮らしの質、運営の健全性をどのように担保していくかが課題である。これらの解決のためにも、今後、協議会で評価基準をつくり認定制度にすることなどが必要かもしれない。(な)